



発行所 県立松山工業高等学校 編集 新聞部 愛媛県松山市真砂町1 印刷所 株式会社 松栄印刷所 松山市三番町七丁目9-2 電話 941-3334番

☆ 二面記事 ☆ 運動会 松工祭 全国大会に出場して

生徒会役員任命



後列 神谷会計長 瀧口監査長 長野庶務長 菅野書記長 前列 大平副会長 松野会長 成松副会長 濱本広報長

生徒会長

情報電子科 二年 松野 京介

この度生徒会長に就任しました。情報電子科二年の松野京介です。私は今回、生徒会制度を変えるという公約のもと選挙に臨みました。今の制度のままでは、学校を変えていくことは難しいと思ったからです。そこで、生徒会に誰

でも立候補できる形にしていきたいです。生徒会制度を変えることで、全校生徒がさらに生徒会に参加することができると考えています。

当日の選挙では緊張しましたが、私の思いをたくさんの人に伝えることができ、その結果、皆さんが私に期待してくださり、無事生徒会長になりました。生徒会長になったからには公約を達成するとともに、さらに様々

な意見を取り入れて生徒が求める学校づくりをしていきたいと思えます。そのためには、皆さんの力が必要です。ここがゴールではなくスタートだと思つて、これから一年間、生徒会役員八人と生徒全員で学校をよりよくしていきたいでしょう。どうぞ、よろしくお願ひします。

全国大会準優勝 メカトロ口部

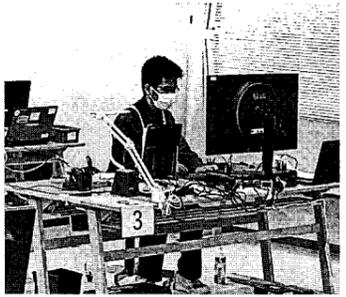


第二十二回高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門・電子回路組立部門会場

高校生ものづくりコンテスト

電子機械科 三年 櫻井 友哉

私は、高校生ものづくりコンテスト全国大会「電子回路組立部門」に出場し、準優勝を収めました。全国大会に至るまで、二年生と一緒に取り組み、先生にアドバイスをもらいながら毎日練習をしました。今年度も新型コロナウイルスの影響で思った以上に部活動ができず、自宅に帰ってプログラムの練習をすることで対応しました。全国大会では、思った以上に回路設計課題が簡単で、ほとんどミスがない状況で全体の二番目に完成しました。プログラム問題も、想定していた通りの問題が出て、審査で



高校生プログラミングコンテスト

情報電子科 二年 村上美乃里

全国高校生プログラミングコンテストは、事前に自作したプログラムを本戦サーバで動作させて、出現したマップ上にあるアイテムを取ったり相手に攻撃したりして得点を競い合うAI型プログラムの大会です。一次予選、二次予

令和四年度進路状況

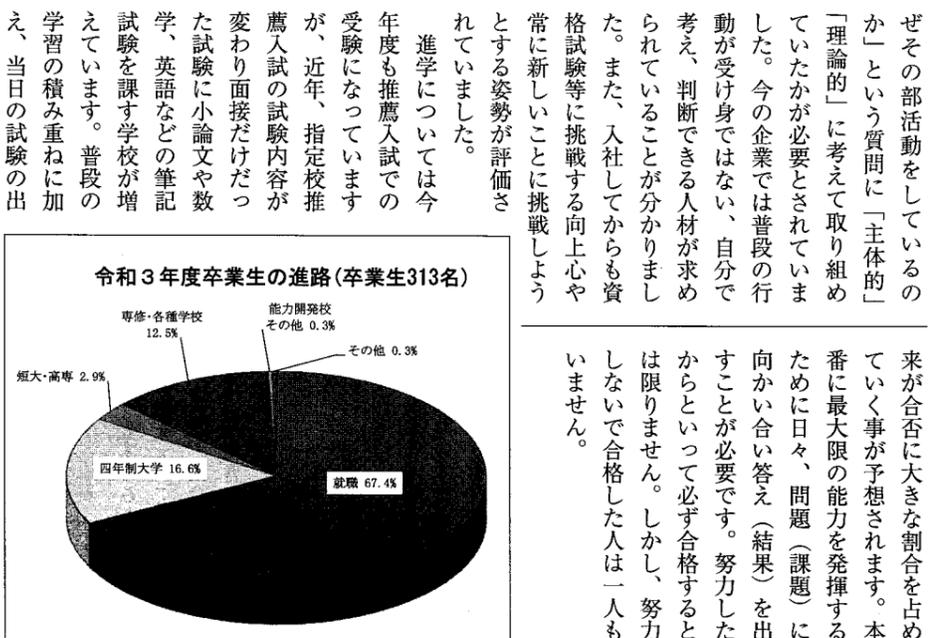
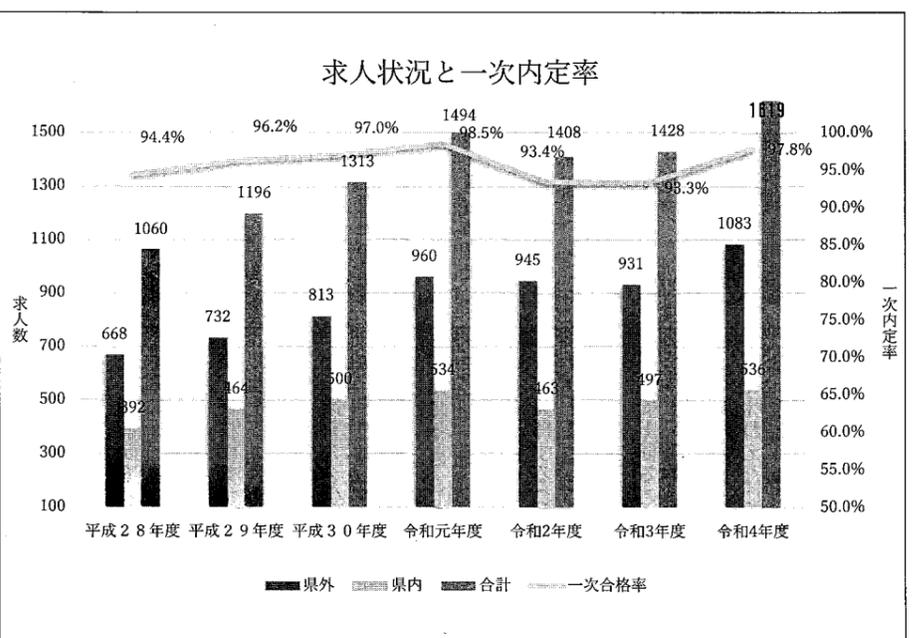
進路指導課長 稲井 成拓

令和二年度、新型コロナウイルスの流行により、厚生労働省や文部科学省は就職試験の日程を一月遅らせ、入学試験も例年とは大きく変更となりました。世界は混乱に陥り経済活動の停滞により世界的な不況が懸念され、観光業・飲食業の求人は大きく減少しました。二年間の長いコロナの影響の中、今年度は求人数が回復し、再び売り手市場となりました。一次合格率も九七%に回復しました。不合格の原因は人気企業の採用基準が高いことです。面接で指摘された内容は「自主性」「主体性」です。例えば「なぜその資格を取ったのか」「なぜその部活動をしているのか」という質問に「主体的」「理論的」に考えて取り組んでいたかが必要とされています。今の企業では普段の行動が受け身ではない、自分で考え、判断できる人材が求められていることが分かりました。また、入社してから資格試験等に挑戦する向上心や常に新しいことに挑戦しようとする姿勢が評価されています。



全国大会出場予定(一月)

全日本バレーボール高等学校選手権大会 一月四日、東京都 自動車部・電子技術部 情報電子科二年石丸聡玲さん 電子機械科二年村上勇磨さん ジャパンマイコンカーラリー 一月七日、大阪府



進路については今年度も推薦入試での受験になっています。推薦入試の試験内容が変わり面接だけだった試験に小論文や数学、英語などの筆記試験を課す学校が増えています。普段の学習の積み重ねに加え、当日の試験の出

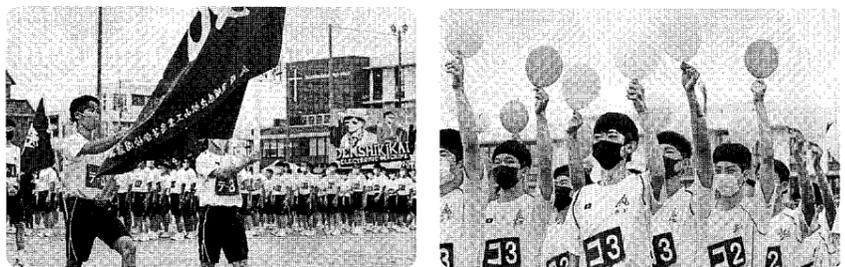
雷鳴八科 光り輝く 松工の戦士達

九月二十九日運動会が開催され、雨がぼつぼつと降ることもあったが、熱気のもつた一日となった。今年も入場行進も行われ、風船を飛ばす演出など各科それぞれのパフォーマンスで観客を沸かせた。また、密を避ける「松工積み積み」が新種目として加わった。

八科総乱 運動会

リレー種目では、走りきった後に倒れ込む選手や、練習機会が少なかったにもかかわらず息の合ったバトンパスで快走するチームなど、全力を出し切る選手たちの姿に温かい拍手が送られた。松工体操では、一年生の堂々とした演技に加え、上級生の声援がグラウンド中に響き渡り、松工生が一体となって競技した。応援合戦は、各科が様々なコンセプトで演技構成し、キレのある力強い応援がある応援など、観客を笑わせた応援、動きが揃った迫力ある応援など、工業高校ならではのパネルが多かった。また、パネルと連動した応援もあり、凝った演出が見られた。

成績は、土木科が総合優勝、二連覇、繊維科が装飾、応援、行進部門優勝の三冠を達成した。コロナ禍で制限されること多かった学校行事だが、溜まったエネルギーが溢れ出すような躍動感、学年の壁を越えた団結力、そして笑顔が満ちあふれていた。来年こそは、何の制限も無い運動会が開催されることを期待したい。



【運動会総合優勝】
土木科 三年

私たちは高校生最後の運動会で、全制覇を目指していました。

しかし、全員が同じモチベーションではありませんでした。積極的に運動会の練習や準備をする人がいる一方で、何もせず帰ってしまう人もいました。しかし、本番が近づくにつれ、少しずつクラスが一つになっていきました。

そして運動会本番では土木科伝統の「松風」を披露し、最高のパフォーマンスができました。その結果、総合優勝と競技優勝の二冠を果たすことができました。学年を超え「土木家」になることができました。多くのアクシデントもありましたが、最高の思い出になりました。



アイデア無限 松工祭

天候にも恵まれ、十一月三日、三日に松工祭が開催された。一日目は、弁論大会とSDGsの発表、二日目は、吹奏楽部の演奏や展示、模擬店が行われた。今年も食品は扱えなかったが、学年に関係なく出店でき、様々な工夫を凝らして観客を楽しませていた。

発表は、三年生は体育館、一・二年生はWEBで傾聴した。弁論大会では、話題を世界に向けた発表や高校生活での体験から得たことなど、どの弁士も素晴らしい堂々とした発表であり、電気科の曾我武士さんが最優秀賞に輝いた。また、吹奏楽部の演奏では、様々な曲の披露に加え、スペシャルゲストの登場でさらに盛り上がり、時間があっという間に過ぎた。

模擬店は、去年より店の数が多く賑やかで、ビンゴや腕相撲、ヨーヨー釣りなどのゲームや、型抜き、風船の販売、チエキのサービスなど、たくさんの人が楽しめるイベントが企画され、景品も豪華なものが多かった。また、様々な展示や家庭クラブ委員の読み聞かせもあつた。自分たちで出し物を作るなど、工業科の知識や技術を生かした一面も発揮していた。保護者などたくさんの方が訪れ、生徒や子どもたちの笑顔が随所で見られた活気のある松工祭であった。



全国大会に出場して

○高校生ものづくりコンテスト
機械科 三年 清水あゆり



づくりをする事の難しさを再認識することができました。また、閉会式で「自分や周囲、使用者の安全を第一に施工することが大切」というお言葉をいただきました。数年前の首里城の火災も電気系統が火元といわれています。正しい知識を身に付けた技術者となり「安全を第一に」作業することを心がけていきたいと思えます。

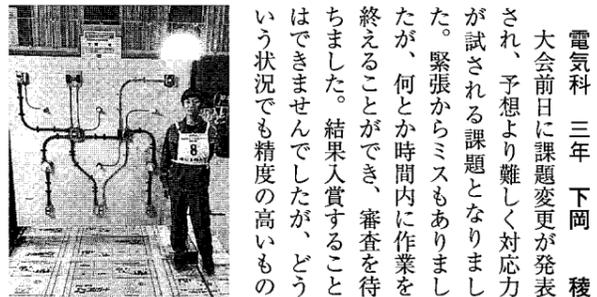
○技能五輪全国大会
メカトロ部
情報電子科 三年 芳野 魁星



今回の全国大会ではいつも練習で使っている旋盤と違うこともあり、大会で使用した旋盤の特徴をつかむことができず、本番ではいつもは起こることのない不思議な現象が起きました。緊張していたこともあり適切な判断ができなかった上に、自分の判断に対し自信を持つことができませんでした。

元々腰を痛めていたこともあり思い切った作業をすることができませんでした。腰が限界になっても作業を行い、周りに流されず作業を続けることができたので、結果に少し悔しいという気持ちはありますが、満足のいく作業ができたと思います。

電気技術同好会
電気科 三年 下岡 稜



大会前日に課題変更が発表され、予想より難しく対応力が試される課題となりました。緊張からミスもありましたが、何とか時間内に作業を終えることができ、審査を待ちました。結果入賞することができました。結果入賞することはいきなりですが、どういった状況でも精度の高いもの

大会では、練習の成果を十分に発揮することができ、自分の目標としていた点数を超えて、企業選手や大学生にも得点で上回ることもできました。初めての大会参加で緊張していましたが、大会の雰囲気や味わえたことで、自分を更に成長させる良い経験になりました。支えてくれた先生方や保護者の方々、仲間や後輩には感謝しています。